

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Social Support, Social Cohesion and Pain during Pregnancy: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

ソーシャルサポート、地域のつながりと妊娠中の痛み

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: European Journal of Pain

年: 2020 DOI: 10.1002/ejp.1717.

筆頭著者名: 山田恵子

所属UC名: 大阪UC

目的:

ソーシャルサポートが心理的苦痛を媒介して妊娠第2期～3期の妊婦の体の痛みの強さと関連し、それを地域のつながりが和らげるかどうかを調べる。

方法:

94,517名の妊婦を対象に分析を実施した。説明変数については主成分分析で合成変数を作成した。調整媒介分析モデルを使用し、ソーシャルサポートの乏しさが心理的苦痛(K6で測定)を媒介し、妊娠第2期～第3期の体の痛み(SF-8の痛み設問)の強さと関連する媒介モデル、および媒介モデルを構成するソーシャルサポートの乏しさが心理的苦痛にもたらす影響を、地域のつながりが和らげる効果(調整効果)を検討した。

結果:

ソーシャルサポートの乏しさは心理的苦痛を完全媒介して妊娠中後期の体の痛みの強さと関連した。地域のつながりはソーシャルサポートの乏しさをもたらす、心理的苦痛への影響を和らげた。総合効果: $b = -0.03$ (-0.04 - -0.02)、媒介モデルの心理的苦痛の間接効果: $b = -0.035$ (-0.037 - -0.034)、地域のつながりの調節変数としての効果を評価するIndex of moderated mediation = 0.006 (0.004 - 0.007) [0でなければ有意と判断]

考察:(研究の限界を含める)

ソーシャルサポートの乏しさと体の痛みの強さの関連が心理的苦痛を介することを、妊娠中女性を対象として直接検証した研究はこれまでになかった。また、今回ソーシャルサポートの乏しさが心理的苦痛に及ぼす影響を地域とのつながりがわずかながらに和らげる効果がある可能性が示唆された。配偶者や友人などから得られる個人的なサポートが乏しい場合の心理的影響が、地域との親和性によって多少なりとも和らげられ、それが妊婦の体の痛みに影響する可能性があることがわかったことは妊婦の健康を考える上で大変意義深い。ただし、今回は横断研究のため因果関係については不明である。

結論:

妊娠期の女性にとってソーシャルサポートや地域の社会的つながりは、妊娠中の体の痛みに対して重要な要素である可能性が示唆された。